

# 九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

作品名 「犬Ⅰ」 「犬Ⅱ」

前期博士課程

芸術研究科 造形表現専攻 美術領域

謝 鵬程

主査 塚本洋守  
副査 渡邊雄二  
高森誠司

## 作品制作の背景 「犬1」

近年、精神疾患にかかる犬が増えていると聞いている。ペットの精神疾患の原因は屋内で飼われるケースが増えて人との距離が近くなり「常道障害」や「分離不安」などの精神疾患にかかりやすい環境になっている。現在では生活リズムが速くなり、飼い主の生活は忙しくペットと一緒にいる時間が少なくなってペットの孤独感が強くなって精神疾患が増えていると考えられる。このようなことを踏まえて造形を試みた。

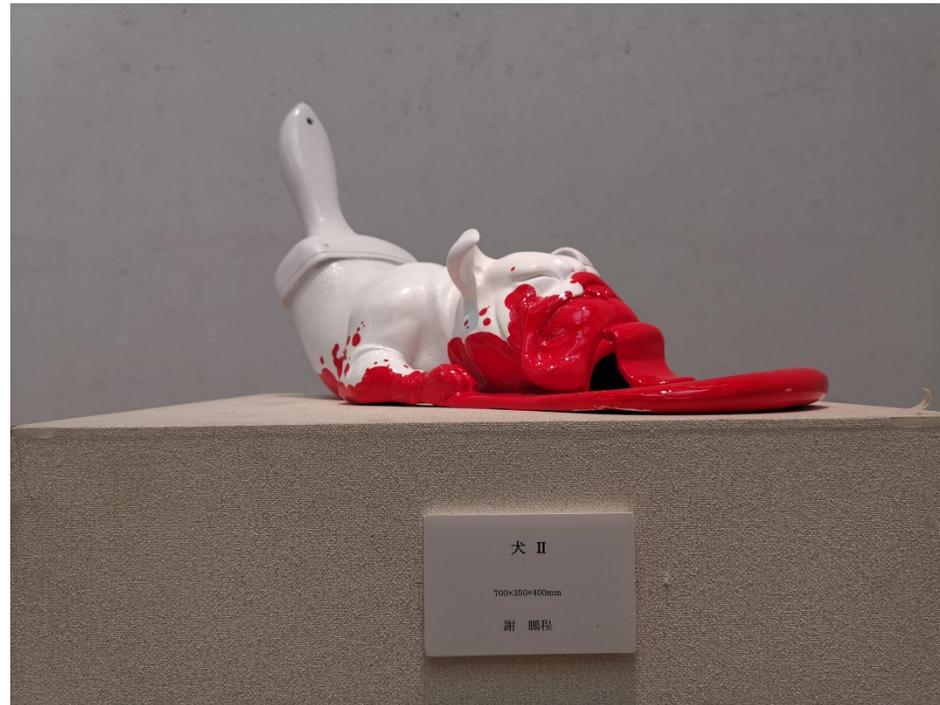
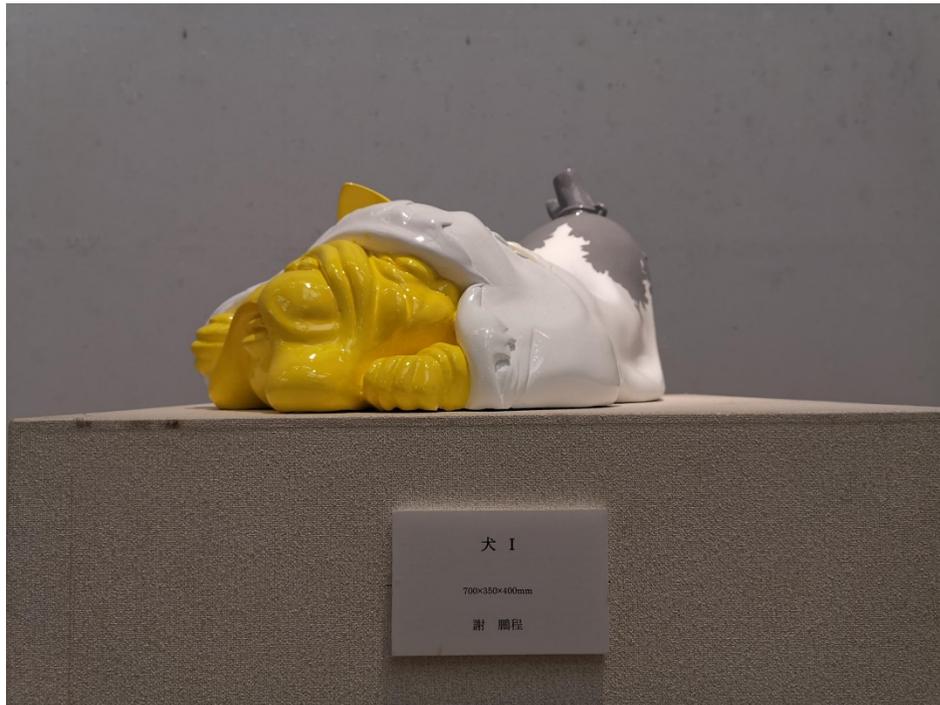
## 作品制作の背景 「犬Ⅱ」

野生動物だけでなく動物農場などで毛皮を取るためにミンク、ウサギ、キツネ、チンチラなどの動物が毛皮を取るために飼育されている現状を見たとき私は営利目的の為に無駄な殺傷をしているのではないかという複雑な思いである。ただ昔から動物の毛や革は色々な道具や物などに使われてきた。また現在も使用されている。例を挙げれば色々な筆、太鼓の革、コート、バック、アクセサリーなど数きれないほどある。このようなことを踏まえて造形を試みた。

## 制作目的

作品のコンセプトはペットとして飼われている犬の造形をブラックジョーク的なユーモアのある表現にすることで、社会にメッセージのある作品を提示する。

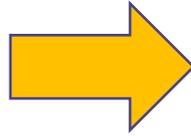
# 作品概要1 小作品制作（着色）



# 作品概要2 本作品制作の制作過程



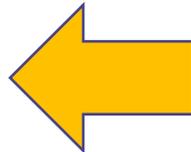
粘土原型



石膏を用いて型を取る（雌型）



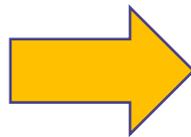
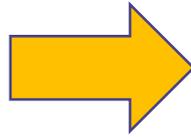
水離形による  
石膏制作（本作品）



## 作品概要2 本作品制作の制作過程



作品修正及び荒磨き



下地塗り、着色

## 作品概要2 本作品完成



## 指導教員コメント

謝さんはペットとして飼われている動物や動物の毛がいろいろな道具に使用されていることに着目し、ブラックジョーク的でありながらユーモアのある作品を制作している。作品は丁寧な仕上げとデフォルメされた犬の造形は完成度があり高く評価できる。

塚本洋守